

器具・用具類の消毒方法

消毒方法		エタノール 水溶液	塩素系薬 剤水溶液 (ハイター 等)	煮沸によ る消毒	紫外線照射 による消毒	蒸気による 消毒(蒸し 器など)	逆性石鹼 水溶液(オ スバン等)	グルコン酸ク ロルヘキシジ ン	両性界面 活性剤(テ ゴー51等)
器具・用具類									
ガラス類	ガラス管・小皿・ ボール・カップ 等	○	○	○	○	○	○	○	○
木の材質	オレンジウッドス ティックなど			○					
獣毛類	刷毛・ヘアブラシな ど	○	○		○		○	○	○
合成ゴム素材	スポンジなど	○	○				○	○	○
陶磁器類	小皿・ボールなど	○	○	○	○	○	○	○	○
綿布類	タオル・バスマット・ スリッパなど	○	○	○		○	○		○
合成樹脂素材	スパチュラなど	○	○		○		○	○	○
鉄素材	体重計など	○			○		○	○	○
ステンレス素 材	ハサミ・ツイーザー・ ネイルニッパーなど	○	○	○	○	○	○	○	○

※表内の○印は、その素材に適した消毒方法であることを示しています。

※タオル類については、塩素系薬剤水溶液を洗濯の際使用するのが望ましい。

①サロン内で使用する消毒薬は、種類を少なくすることで作業効率が良くなるので各サロンに適した選定をする。(すべての消毒方法をサロンに備え置くということではありません。)

②血液が付着した場合の消毒は、エタノール、塩素系薬剤、煮沸のいずれかを使用する。

チェックリスト

		月 日			月 日			月 日					
従業者の健康状態	爪の状態										出勤時にチェックを行い、記録する。特に下痢・発熱がある場合は、接客させずに速やかに医療機関を受診させる。手指に傷がある場合、接客を見合わせる。		
	手指の傷												
	下痢												
	発熱												
身だしなみ	制服の汚れ										髪の毛はゴム等でまとめる。不安定な靴は避ける。		
	髪の状態												
	靴												
清掃	入口	ドア										ノブ等よく触る場所を定期的にエタノール含有のカット綿で拭く。	
		床										ほこりや髪の毛を取り除き、汚れのある部分は水拭きする。	
		下駄箱										1日1回は水拭きを行い、臭いをチェックする。	
		スリッパ										エタノールを噴霧	
	待合い	テーブル										毎日、逆性石鹼液で清掃 消毒に適さない素材の場合は、クロスやタオルをかけて毎日交換する。	
		ソファ(椅子)											
												給茶スペースやカウンター等がある場合、整理整頓しよく触る部分は定期的に水拭きする。	
	施術室	床										ほこりや髪の毛を取り除き、汚れのある部分は水拭きする。ノブ等よく触る場所は定期的にエタノール含有のカット綿で拭く。壁は、毎日汚れをチェックし汚れがついた部分を水ぶきする。	
		壁											
		ドア											
		機器	:	:	:	:	:	:	:	:	:		原則として、直接肌に触れる部分はお客様ごとにエタノール液等で拭く。
		ベット	:	:	:	:	:	:	:	:	:		
	更衣室	床等										ほこりや髪の毛を取り除き、汚れのある部分は水拭きをする。ノブ等よく触る場所は使用の都度水拭きする。	
		壁											
		ロッカー											内部及びノブ等を1日1回エタノール液等消毒液で拭く。
	水回り	手洗い設備	:	:	:	:	:	:	:	:	:	水滴等はこまめに拭き取る。	
		排水溝	:	:	:	:	:	:	:	:	:	つまりや臭いをチェックし、清掃する。(ヘアキャッチャーの清掃)	
		洗浄液	:	:	:	:	:	:	:	:	:	液量を1日数回チェックする。	
		ペーパータオル	:	:	:	:	:	:	:	:	:	量を1日数回チェックする。(普通のタオルを使用する場合お客様ごとに交換する)	
		トイレ 床	:	:	:	:	:	:	:	:	:	1日数回(使用頻度により回数を決める)清掃を行い、清潔に保つ。壁やドアは、よく触るところのみ。(下痢便があった場合は適切な清掃が必要)★換気扇は常時スイッチオン	
		ドア	:	:	:	:	:	:	:	:	:		
		壁	:	:	:	:	:	:	:	:	:		
		便器	:	:	:	:	:	:	:	:	:		
		入浴施設 床	:	:	:	:	:	:	:	:	:	髪の毛、水垢、ゴミ等がないように清潔に保つ。排水溝はつまりや臭いをチェックする。浴槽や床のぬめりはきちんと落とす。使用後毎回チェックを行う。★換気扇は常時スイッチオン	
		壁	:	:	:	:	:	:	:	:	:		
	浴槽	:	:	:	:	:	:	:	:	:			
	排水溝	:	:	:	:	:	:	:	:	:			
	全体	照明										定期的な清掃と点検(毎日汚れがないかチェックする。汚れていれば清掃する。特に空調設備の吹き出し口等)	
		換気扇											
		窓											
		空調設備											
		ゴミ箱										洗浄・消毒・殺虫 ビニール内に投棄(ゴミ箱を汚さない)	
		消毒スペース										消毒スペースは毎日清掃、保管場所は定期的(週に1回程度)に清掃(整理整頓)	
		保管場所											
	消毒	消毒液等のチェック										残量を毎日チェックし、不足がないようにする。	
		保管場所										消毒液にあった保管場所(冷暗所等)を定め、清潔に保ち整頓する。	
		使用済み備品の消毒										素材ごとに適切な消毒方法及び手順を定め行う。	

衛生管理に関する Q&A

この Q & A は、厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「エステティックにおけるフェイシャルスキンケア技術の実態把握及び身体への影響についての調査研究」で行った衛生管理に関する調査でエステティックサロンの皆様から頂いた質問等をまとめたものです。

Q サロンの規模が小さく、「器具・用具類の消毒方法」にある消毒方法すべてをそろえられません。

A すべてそろえる必要はありません。目的は、サロンで使用しているお客様の肌に直接触れる器具・用具類を消毒することですから、その器具・用具類の材質に適した消毒方法を表の中から一つ選択して実行して下さい。消毒方法の中からエタノールや塩素系薬剤水溶液等幅広く使用できるものを選び、これらで消毒できる素材の器具・用具類で統一すると消毒方法を 1 種類準備すれば目的を達成できます。

Q 機能性よりファッション性を重視した内装にしている関係上、消毒液による劣化が激しいものがあるが、どうしたらよいか。

A プラスチックや金属には多くの種類があり、熱に強いもの弱いもの、酸性の薬品で変質しやすいものしにくいもの等それぞれ特徴があります。消毒を行う前にその素材がどのような特徴をもつのかを把握したうえで消毒方法を選択して下さい。(一般的には、変質しやすい素材でも消毒後きれいにふき取れば変質しにくいと言われています。)

素材が分からない場合は、メーカーに素材の特徴と最適な消毒方法を問い合わせみてください。

なお、木製の家具は、エタノール含有のカット綿でふき取り、布製のソファ等の場合は、カバーをかけ、適宜はずして洗濯消毒するようにしてください。

Q 医薬品ではない除菌消臭効果をうたった市販品に効果は期待できるか？

A 除菌は菌量を減らすこと、抗菌は菌の増殖を抑えることを意味していて、いずれも消毒薬に求められている殺菌の効果はありません。個々の商品が機器等の消毒に適しているかどうかについては、薬局などにお問い合わせください。

Q スペースがなく蓋付きの容器を置けない、いちいち蓋をあけるのが面倒で蓋をあけたままにしている。

A 「消毒済」と「使用済み」の蓋付きの容器が必要なのは、消毒済みの器具類が浮遊する細菌等で汚染されないこと、使用済みの器具類を誤って再利用しないことや感染物質が拡散しないことが目的です。ですから、消毒済みの器具類は蓋付き容器もしくは扉が閉まる戸棚等への保管が望ましく、使用済みの器具類は消毒するまで蓋付きの容器に隔離する必要があります。例えば、スペースがないあるいは施術中にひと手間かけられない場合、一人のお客様への施術で使用する器具類を小分けして小さな容器に収納し、施術時に開封することでほかのお客様に使用する器具類は、安全に保管できます。このように目的を理解したうえで、業務の支障にならないような工夫をサロンごとで考えてください。

Q 感染症を予防する対策を教えてください。

A 感染は、身体の中に細菌やウイルスなどが侵入することで起こります。感染症を予防するためには、身体の中に細菌やウイルスを侵入させないことが重要です。そのため、接触感染、空気感染、飛沫感染等主な感染経路のメカニズムを理解して対策を講じます。手に傷がある場合には手袋をする、施術前後に手洗いと手指の消毒をする、人が良く触る箇所やトイレ等の感染のリスクの高い場所の消毒を徹底する、インフルエンザなどの流行時期にはマスクをする、などを実行して細菌やウイルスの身体への侵入を防ぎましょう。室内の換気をこまめに行い、施術の際に皮膚に直接触れた器具の取扱いも慎重に行います。また、直接皮膚に触れる器具やタオル類を複数の人に使用しないようにしてください。虫を介して感染するものもありますので、サロン内に虫が発生しないように清潔に保つことも大切です。

なお、感染症はご自身のお客様や他の従業員を介して、感染が広がる可能性があります。感染症にかかっている可能性がある場合には、速やかに医師の診察を受けてください。

Ⅱ 資 料

1. エステティックにおけるフェイシャルスキンケア・・・・・・・・・・ 29
技術の実態把握についての調査研究
2. エステティックにおけるフェイシャルスキンケア・・・・・・・・・・ 47
技術の身体への影響について 1
3. エステティックにおけるフェイシャルスキンケア・・・・・・・・・・ 63
技術の身体への影響について 2
4. エステティックにおける衛生管理の実態について・・・・・・・・・・ 71
5. エステティック施術で使用されている化粧品の安・・・・・・・・・・ 95
全性及び IPL 脱毛器、RF 美容機器の安全性について
6. エステティックの衛生管理の徹底及び消費者身体・・・・・・・・・・ 109
危害の実態について
7. エステティック施術で使用されている施術用美容・・・・・・・・・・ 119
機器の皮膚への影響確認試験

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）

平成22年度 分担研究報告書

エステティックにおけるフェイシャルスキンケア技術の 実態把握についての調査研究

研究分担者 大原 國章（財団法人日本エステティック研究財団理事長）

研究協力者 竹田 政宏（学校法人国際文化学園国際文化理容美容専門学校
渋谷校 教務部美容科科长）

研究要旨

●目的 フェイシャルスキンケアはヒトの身体を対象とする施術であるにもかかわらず、施術を行う施設（エステティックサロン）や施術を行う技術者（エステティシャン）に対する法的規制はないため、その実態は明確にはなっていなかった。そこで、エステティシャンの教育、施術の内容、衛生管理の現状を調査し、さらにフェイシャルエステが原因と考えられる健康被害の実態を把握することを目的とした。

●方法 業界関係者（エステティックサロン開設者、教育担当者、エステティシャンら）に対して面談による聞き取り調査を行い、同時にエステティック業界団体などが発行する資料やエステティックサロンの広告類を収集して、エステティシャンの教育やエステティックサロンにおける施術の内容、衛生管理の状態を調査した。また、独立行政法人国民生活センターの全国危害危険情報資料の「ビガン（美顔）エステ」の情報を分析して、エステティックサロンでのフェイシャルスキンケアに伴う消費者の健康被害の内容を調べた。

●結果 民間資格の認定を受けているエステティシャンは、300 時間以上の教育カリキュラムのなかで、施術の理論や技術、衛生管理などについて十分な教育を受けていた。施術の内容としては、エステティックサロン全体の9割以上でフェイシャルスキンケアを行っていた。その多くは、クレンジング、マッサージ、パックからなる基本コースにエステ機器などを組み合わせていた。衛生管理については、民間資格を得る際に教育されていたが、実践が不十分と見られる点もあった。独立行政法人国民生活センターに寄せられた消費者からの相談事例では、使用した化粧品による接触皮膚炎と思われる症状が大半をしめ、その他には、治療効果を求めた施術や機器の不調による熱傷などがみられた。感染症に関連する健康被害はなかった。

●結論 以上の結果から、民間資格を有しているエステティシャンは十分な教育を受けていると考えられるが、衛生管理の実践面では不十分な部分があった。また、健康被害の多くは、使用した化粧品による接触皮膚炎と思われる症状と機器等を用いた付加的サービスによるものであった。今後、エステティシャンに対する民間資格取得を推進すると同時に、衛生管理に関しては民間資格の更新システムを確立するなどの方法で継続した教育の必要性が示唆された。また、接触皮膚炎対策として施術時に使用する化粧品の刺激性を確認し、さらにエステ機器などの付加的施術による危害を予防するために、個々の施術の安全性を確認し、安全な施術の範囲を明確にする仕組みの検討が必要と考えた。

A. 研究目的

エステティックの歴史を紐解くと、1905年（明治38年）横浜で理美容サロンを営む芝山兼太郎氏が、アメリカの生理学者ドクター・W・キャンブルーからフェイスマッサージの技術を学び「美顔術」として行ったのが最初である。このフェイスマッサージは筋肉の走行、血液やリンパの流れに沿った求心的な手法で、現在も日本のフェイシャルマッサージの基礎となっている。

現在では、エステティックは、エステティック業界の統一自主基準の中で、一般的に健康な人に対して「一人ひとりの異なる肌、身体、心の特徴や状態を踏まえながら、手技、化粧品、栄養補助食品および、機器、用具、等を用いて、人の心に満足と心地よさと安らぎを与えるとともに、肌や身体を健康的で美しい状態に保持、保護する行為」と定義付けられており、その中で、化粧品、器具、用具、等を用いた行為を含む、顔面に対する手技をフェイシャルスキンケアと呼ぶ。

消費者の美やリラクゼーションに対する意識の高まりとともにフェイシャルスキンケアは広く行われるようになり、エステティック専門店や理容室、美容室だけでなく、リゾートホテル、温泉旅館、健康ランド、スーパー銭湯などでも、フェイシャルスキンケアが行われている。また、最近では、通所デイケア施設や緩和ケア病棟でもケアの一環として取り入れられるようになった（一般社団法人に本エステティック協会ソシオエステティシャン）。

しかし、施設や技術者にかかわる公的な基準や法律の規制はなく、関連情報を集約、管理する監督官庁もないため、フェイシャ

ルスキンケアの実態には不明な点も多い。

また、独立行政法人国民生活センターには、フェイシャルスキンケア（「ビガン（美顔）エステ」）による消費者の健康被害が報告されており、早急に実態を把握することが必要であると考えている。

本研究では、エステティック業界自主基準による認定エステティシャンの資格獲得に必要なとされる教育内容、施設及び提供されている施術内容、施設の衛生管理の現状を把握し、また消費者の健康被害の実態を明らかにすることを目的とした。

B. 研究方法

フェイシャルスキンケアについては、施設や技術者について法的な規制がなく、その実態を把握することは困難なために、本年度はエステティック業界団体に協力を得て資料収集を行い、さらにエステティックサロンの開設者、教育担当者、エステティシャン等から、その実態についての聞き取る調査を中心に実施した。

具体的には、以下の項目を実施した。

- 1) エステティックサロン開設者、エステティシャン、エステティック業界専門誌編集者への聞き取り調査および、施術者教育用教材及びエステ機器関係資料の収集
特定非営利活動法人日本エステティック機構、一般社団法人日本エステティック協会、一般社団法人日本エステティック業協会、一般財団法人日本エステティック試験センターから資料提供等の協力を得た。
- 2) インターネットのエステティックサロン数社のホームページや無料配布のタウン誌、新聞折り込みチラシに掲載されてい

るフェイシャルスキンケアメニューの情報収集

「ばど」,「ホットペッパー」,「ポコチェ」,「メディアタウン東京」の無料配布媒体,新聞折り込みチラシおよびインターネットの「エステティックサロン各社ホームページ」よりサンプルとして26品目を抜粋して情報を収集した。

- 3) 独立行政法人国民生活センターに寄せられた消費者からのフェイシャルエステティックに関する相談内容の分析

2008年4月～2010年3月までの期間の全1,157件のデータより「ビガン(美顔エステ)」に分類された情報を抽出した。

- 4) 研究協力者によるエステティシャン教育担当者およびエステティシャンに対する衛生管理に関するヒアリング

理美容専門学校でフェイシャルエステティックの教育を受けた卒業生のうち,エステティック営業施設でフェイシャルスキンケア技術を行っているエステティシャン30名及びフェイシャルスキンケア技術の教育担当者8名より,衛生管理に関する教育の状況,衛生管理に関する施術現場での状況,感染予防に対する配慮の状況について聞き取り調査を行った。

C. 研究結果

◆フェイシャルスキンケアの現状

エステティックサロンの開設に際し届け出義務がなく,またエステティシャンに関しても公的な資格制度はなく,関連団体が推奨する民間資格制度のみであるため,正確な実態を把握することは困難である。公表されているデータによれば,2010年のエステティックの市場規模は,約3,536億円

(榊矢野経済研究所調べ),2010年12月末現在のエステティックサロン数は全国に約18,000店舗(月刊エステティックジャーナル調べ),エステティシャン数は約72,000人((財)日本エステティック研究財団推測値),エステティック業界団体民間資格取得者数約36,000名(平成22年12月末現在,一般社団法人日本エステティック協会に会員として所属している有資格者:約18,000名,平成22年12月末現在,一般社団法人日本エステティック業協会の有資格者:約18,000名)であり,エステティックサロンの97%がフェイシャルスキンケアを取り入れている(平成13年(財)日本エステティック研究財団調べ)。

料金は,クレンジング,洗顔,スチーマー,吸引,マッサージ,パック,整肌のうち4施術以上で,施術時間60分,女性ビジターの料金は,2010年12月現在の東京都区部のエステティック料金は14,400円。全国平均は8,988円(総務省統計局「小売物価統計調査」調査結果より)であった。

◆エステティックサロンで行われているフェイシャルスキンケア

エステティックサロンで提供されている施術サービスは,「フェイシャルスキンケア」,「脱毛」,「痩身」に大別できるが,このうちフェイシャルスキンケアは,97%の施設に導入している。一般的に「フェイシャルスキンケア」は,「美肌(健康な肌)を保つこと」を目的とし,手技やエステ機器,化粧品を駆使して,肌表面の汚れや毛孔の汚れの洗浄,皮膚の保湿や栄養補給,皮膚の保護を行っている。

フェイシャルスキンケアの内容は,基本

コース(クレンジング→ディープクレンジング→マッサージ→パック)に加えて、多様な施術サービスが付加されている。一般的には、ビフォーカウンセリング(施術前の確認)→クレンジング→スチームタオル→施術中のカウンセリング(皮膚の観察)→ディープクレンジング→電気機器→マッサージ→パック・マスク→仕上げ→アフターカウンセリング(施術後のフォロー)のような手順で行われる。

フェイシャルスキンケアで用いられているハンドテクニックの基本は、軽擦法、強擦法、揉撫法(揉捏法とも呼ぶ)、打法、振動法、圧迫法の6つのマッサージ技術からなる。詳細は、別表 P37～に示す。一方、ハンドテクニックを補完するエステ機器も別表 P39～にあるように、多種多様のものが盛んに取り入れられている。

実際に行われているフェイシャルスキンケアの内容を調査するために、無料配布のタウン誌、新聞折り込みチラシ、エステティックサロン各社のホームページに掲載されているフェイシャルスキンケアサービスについて調査したところ、施術の目的として、肌のくすみの改善、乾燥肌・脂性肌のケア、シワやシミのケア、引き締め(タルミ、二重あごの改善)、ニキビやニキビ跡のケア、美白、アンチエイジングケアなど、皮膚疾患や加齢による変化への対応に言及しているものもみられた。

別表 P41～「エステティックサロンのフェイシャルメニュー広告表現事例」に示すように、「美肌を目的とした手技主体のメニュー」、「ニキビケアを目的としたメニュー」、「ピーリング技法を用いたメニュー」、「光線機器を用いたメニュー」、「超音波、高周

波、低周波、ラジオ波等のエステ機器を用いたメニュー」に分類してまとめた。

◆エステティシヤンの教育の現状

平成19年5月に特定非営利活動法人日本エステティック機構(JE0)が“エステティシヤンの養成に必要なカリキュラム(履修科目及び養成時間数)の目安”として「エステティシヤン指針」を公表。そのエステティシヤン指針に基づいて、平成21年11月に同機構では「エステティシヤン試験制度に対する認証事業」をスタートした。

翌年の平成22年6月、「エステティシヤンセンター試験」が同機構に制度認証され、平成22年11月、「第1回エステティシヤンセンター試験」を行った。

特定非営利活動法人日本エステティック機構がエステティシヤン養成の目安とした「エステティシヤン指針」(P44～)には、300時間以上履修と1000時間以上履修の2つのレベルが設定されている。300時間以上履修のレベルでも、「皮膚科学」「解剖生理学」「運動生理学」「化粧品学」「電気学・機器学」などの基礎的な知識と実践的な技術を習得するカリキュラムとなっている。

技術教育に関しては、フェイシャル理論とフェイシャル技術実習に分かれ、前者ではフェイシャルスキンケアの目的と手法、エステ機器の使用法を学習し、後者では基礎技術、エステ機器の取り扱いを含めた実技を学ぶ。

◆フェイシャルエススキンケアに関する消費者からの相談事例と傾向

独立行政法人国民生活センターより開示・提供をうけた、消費者から寄せられた

相談の集計、「エステティックサービスに関する PIO-NET における全国危害危険情報」（期間 2008 年 4 月～2010 年 3 月、危害相談件数全 1,157 件）の資料より、「ビガン（美顔）エステ」の商品キーワードに分類されている情報から、フェイシャルスキンケアに関連するものを抽出した。なお、これらの情報は、消費者からの申し出をそのまま掲載しているため、健康被害の症状や原因は、消費者の立場からのものである。

①「ビガン（美顔）エステ」に分類された相談件数は 544 件で、全相談件数の 47.0% を占めていた。うちエステティックサロンでは施術を行わないとされている「まつ毛パーマ」「まつ毛エクステンション」「アートメイク」の相談件数は 247 件（ビガンエステ総数の 45.4%）であった。

②「ビガン（美顔）エステ」に分類された相談件数のうち危害が報告されたのは 297 件（全体の 54.6%）、その中で、医療機関を受診した人は 107 件（36.0%）であった。危害状況の内容は、皮膚障害 216 件（72.7%）、熱傷 36 件（12.1%）で、その他 45 件となっていたが、擦過傷、挫傷、打撲傷などの外傷に加えクーリング・オフや中途解約等の相談を含んでいた。

「皮膚障害」の中には、「化粧品が合わずに肌がただれ通院した」、「エステで購入した化粧品によりトラブルを起こした。この化粧品は刺激が強すぎるので、エステの指導の下に使用していた」、「美顔エステ施術後顔面の皮膚に炎症が起こり、医師にエステが原因と診断された」などが相談事例としてあり、施術に使用した化粧品やサロンで購入した化粧品が原因の接触皮膚炎と思われるものが 112 件（51.9%）をしめた。

「熱傷」の中には、「脱毛エステでやけどをし、完治するまで治療費を払ってくれる約束だった。治りが遅いのでレーザー治療代も支払って欲しい」「脱毛エステを受けた後でヒリヒリと痛みが取れないので、診察を受けたら火傷になっていた」「タウン誌を見て口周りの脱毛エステに行くと広告より施術代が高額であり、皮膚熱傷を負った」「顔の脱毛エステを受けたところ、担当者のミスで顔と首に火傷を負わされた」などの事例があり、またそれとは別に、顔面部のシワやシミ、ホクロ、ニキビ跡の除去や解消を目的にサロンを利用して、危害が発生している例がある。施術の内容は、エステティック機器（高周波応用機器、ラジオ波、光線応用機器等）によるものが多く、中には、機器の整備不良が原因と思われる「スチーマーからの熱湯」による熱傷やケミカルピーリングに伴う事例があった。

皮膚障害には、光線応用機器によるものが 21 件、ケミカルピーリングによる危害が 16 件、光線応用機器以外の方法でのシワ取りによるものが 26 件含まれていた。

また、その他で「擦過傷・挫傷・打撲傷」と分類されたものは、「化粧品が目に入った」「上から落ちてきたものが当たった」「技術者の爪で引っかかれた」「吸引管の跡が残った」など、技術者の不注意によるものと推測した。また、感染症と思われる事例はなかった。

◆衛生管理の実態

研究協力者が所属する理美容専門学校でフェイシャルエステティックの教育を受けた卒業生のうち、エステティック営業施設でフェイシャルスキンケア技術を行ってい

る 30 名及びフェイシャルスキンケア技術の教育担当者 8 名より、聞き取り調査を行った結果、以下のような事例が提示され、問題点や課題が指摘された。

＜事例＞

- ・照明が暗いため、壁や床の掃除が不十分
- ・機器の掃除・消毒が不十分
- ・タオル類の使いまわし
- ・手指の消毒洗浄が不十分
- ・清潔操作ができていない（化粧品の取り扱い時にスパチュラを使用せず、直接手指で容器から取り出しているなど）

＜問題点＞

- ・感染症をおこした実例や現場におけるトラブル及び訴訟問題などの情報が伝達されていない。
- ・施設毎に衛生管理を実践するためのマニュアルやチェックシートがない。
- ・定期的な再教育システムがない。

＜課題＞

- ・情報伝達のシステムの構築
- ・マニュアル、チェックシートの作成
- ・再教育システムの構築

D. 考察

日本のフェイシャルスキンケアは、提供される施設が多様化しているにもかかわらず、施設や施術者に関する法的規制がない。最近になり、民間の資格認定制度が確立し、資格を得るために必要かつ十分な教育が科せられるようになった。しかし、一方で民間資格すら有しないエステティシャンも施術が可能であり、施設あるいは施術者による安全性の違いが懸念される。

独立行政法人国民生活センターに寄せられた相談事例の中には、フェイシャルスキ

ンケア施術による危害報告が、危害相談全体の 54.6%あった。その多くは化粧品による刺激性あるいはアレルギー性の接触皮膚炎と推測された。エステティックサロンで使用されている化粧品の内容は様々であり、独自の処方をうたっているものもある。これらの化粧品については、パッチテストや使用試験などで、刺激性を含む安全性について確認を行っておく必要があると考えた。

また、エステ機器の整備不良や脱毛行為等に伴う熱傷の報告があり、エステ機器の使用法の順守や整備や管理について一層の喚起を促す必要がある。収集した広告の内容をみると、エステティックサロンにおける施術の範囲を超えた効果をうたっているものもあり、健康被害の報告の中にも、施術行為に問題がある事例が報告されていることから、安全で適正な施術のための指導がより一層望まれる。

衛生管理については、民間資格を有している技術者に関しては、教育・指導はなされているが、修得したことが必ずしも現場で活かされていないことが判明した。その対策として、衛生管理に関する定期的な情報伝達の方法の確立や、各施設での衛生管理マニュアルやチェックシートの作成、資格獲得後の再教育システムの構築が望まれる。

E. 結論

エステティックサロンの 9 割以上がフェイシャルスキンケアを行っており、その内容は、クレンジング、ディープクレンジング、マッサージ、パックからなる基本コースに、エステ機器等を使用した付加価値サービスを組み合わせて行われていた。

エステティシヤンの民間認定資格制度ができて、衛生管理を含む十分な教育がなされるようになったが、資格制度に強制力がないため、エステティシヤンによる衛生管理のレベルの違いが懸念される。

フェイシャルスキンケアによって生じる健康被害の多くは化粧品による刺激性あるいはアレルギー性の接触皮膚炎と考えられ、独自処方化粧品もあることから安全性の確認を行うことに意義があると考えた。また、エステ機器の不適切な使用や整備不良によると思われる熱傷等の健康被害も報告されており、適正なエステ機器の使用が望まれた。

衛生管理についての資格取得時の教育は行われていたが、必ずしも具現化されておらず、一層の啓発活動や有資格者に対する再教育のシステムの構築などが必要と考えられた。

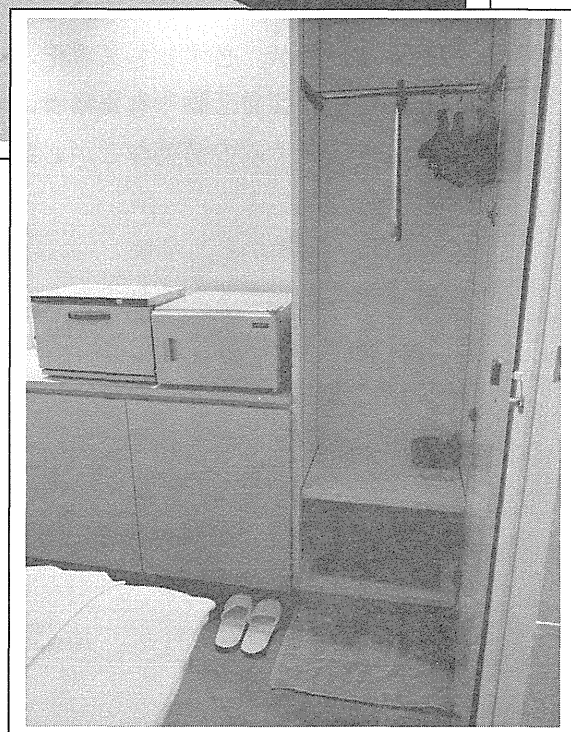
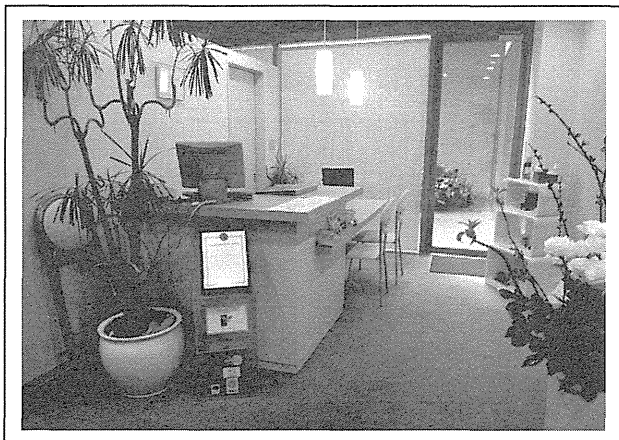
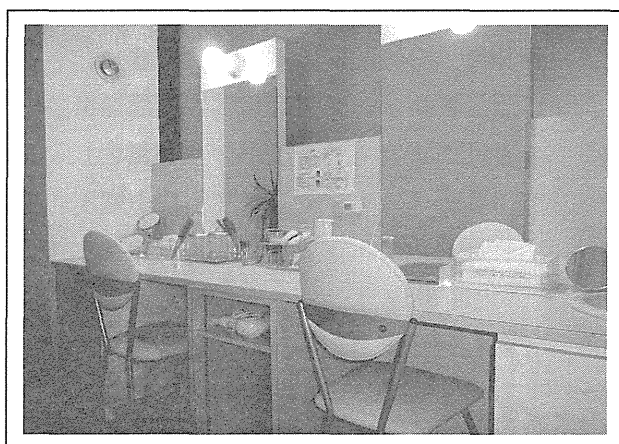
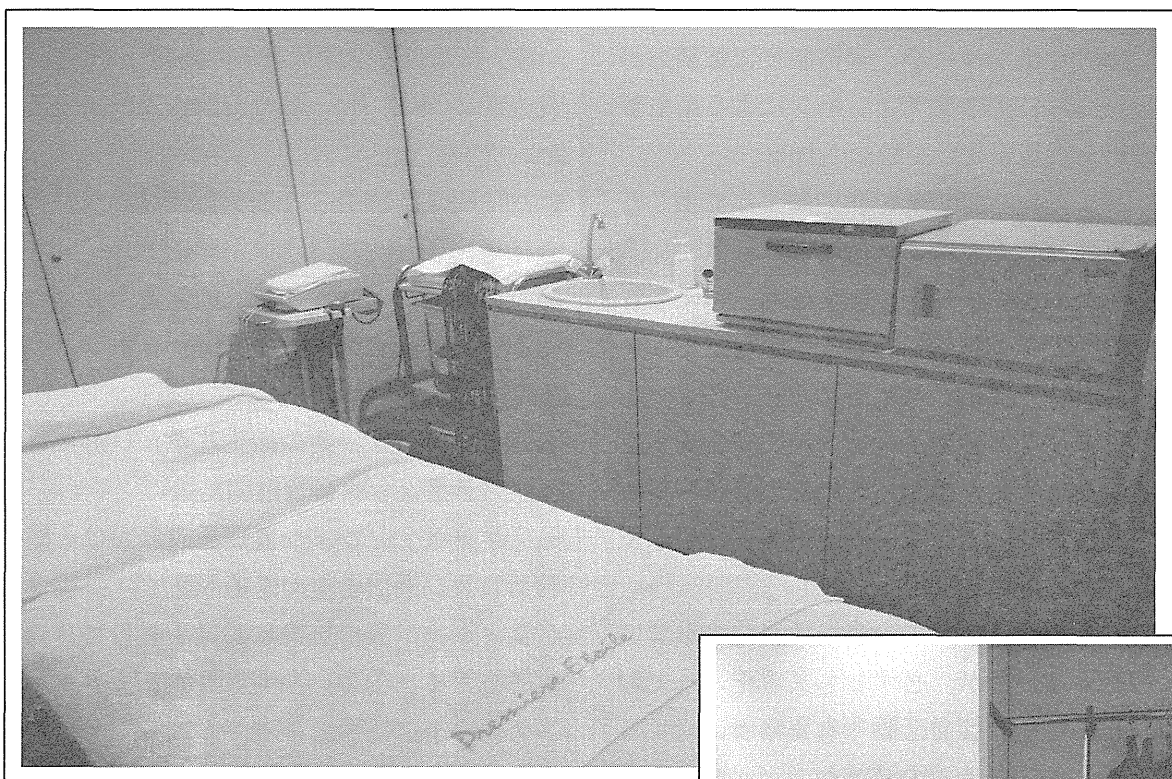
これらの結果から、今後

- ①健康被害を起こすおそれのあるエステ機器についての検討
 - ②施術に使用する化粧品の安全性の確認
 - ③現場での衛生管理を推進するためのマニュアルやチェックシートの作成
 - ④有資格者に対する衛生管理に関する再教育システムの樹立
- などを行っていきたい。

参考資料

- 1)「エステティックサービスに関する PIO-
NET における全国危害危険情報 2008 年 4
月～2010 年 3 月」(独立行政法人国民生活
センター)
- 2)「平成 22 年 12 月 小売物価統計調査 調
査結果」(総務省統計局)
- 3)「エステティックサロンの営業内容等
に関する実態調査報告書」((財)日本エステ
ティック研究財団)
- 4)「エステティックの衛生基準」((財)日
本エステティック研究財団)
- 5)「エステティシヤン養成施設における教
科科目及び通信過程のガイドライン」「エ
ステティシヤン養成施設における教科科目
のガイドライン①②」(特定非営利法人日本
エステティック機構)
- 6)「エステティック機器認証制度 第 1 版」
(特定非営利法人日本エステティック機
構)
- 7)「新エステティック学 理論編Ⅲ」(一般
社団法人日本エステティック協会)
- 8)「新エステティック学 技術編Ⅰ」(一般
社団法人日本エステティック協会)
- 9)「DVD フェイシャルエステティック」(一
般社団法人日本エステティック協会)
- 10)「ソシオエステティックホームページ」
(一般社団法人日本エステティック協会)
- 11)「2011 年エステティックサロンマーケ
ティング総艦」(株式会社矢野経済研究所)
- 12)「月刊エステティックジャーナル」(エ
ステティックジャーナル編集部)

エステティックサロンの店内



写真上 2 枚：施術ルーム個室。

写真左上：施術後に使用するメイクアップルーム。

写真左下：エステティックサロンの
レセプション

表「フェイシャルスキンケアの基本手技」

手法の名称	手法	効果・効用	ポイント
けいさつほう 軽擦法 エフルラージュ =仏語 以下同様	皮膚表面を軽くなでたり、さすったりする手技。マッサージの手技の中でも最も基本となります。リラックス効果に優れているので、マッサージに入るときには必ず行います。強いマッサージに入る前やマッサージの最終ステップでも用います。	・血液やリンパ液の循環をよくします。 ・皮膚や神経を鎮静させます（リラックス効果）。 ・皮膚の温度を高めます。	・手掌や指腹を皮膚に密着させ、力を抜いて行います。 ・ゆったりとしたリズムで行います。
きょうさつほう 強擦法 フリクシヨオン	皮膚を強くこすったり、さすったりする手技。	・血液やリンパ液の循環をよくします。 ・結合組織に停滞する老廃物の排泄を促します。 ・皮膚を柔らかくします。	・皮膚深部を意識し行います。
じゅうねんほう じゅうねつほう 揉擦法、揉捏法 ペトリサージュ	筋肉まで作用するように揉む手技。	・筋肉をほぐし活性化させ、新陳代謝をよくします。 ・老廃物の排泄を促します。	・結合組織や筋肉を揉みほぐすように行います。
だほう 打法 タポートマン	皮膚の上を手指で軽く叩く手技。	・筋肉の収縮力を高め、血液の循環を促します。 ・筋肉や神経を刺激して、新陳代謝を促進します。	・皮膚に対し垂直に刺激が加わるように行います。 ・リズムカルに行います。
しんどうほう 振動法 ヴィブラシオン	軽く細かくリズムカルな振動を与える手技。	・抹消の細かい血管や神経、小さな筋肉に対して作用し機能を高めます。 ・リラクセーション	・肘を張って、腕の筋肉を緊張させて振動させます。 ・手を密着させて行います。

		効果をもたらします。	
あっぱくほう 圧迫法 プレッション	両手掌や指腹を使って皮膚を圧迫する手技。	・圧迫する広さや圧迫後の手を離すタイミングで効果が異なります。 ・静脈血やリンパ液の流れをよくします。 ・皮膚機能を鎮静させます。	・手掌や指腹を皮膚に垂直にあてて行います。 ・呼吸に合わせてゆっくりとしたリズムで行います。

一般社団法人日本エステティック協会「新エステティック学 技術編Ⅰ」平成21年11月発行より引用

表「フェイシャルスキンケアで使用されているエステティック機器」

★カウンセリングで使用する機器(美容測定機器)	
機器の分類	定義
観察用エステティックスコープ	観察用エステティックスコープとは、光源を内蔵し撮像素子を備えた、肌の状態を拡大視できる機能を有する映像装置をいう。
肌観察用紫外線機器	肌観察用紫外線機器とは、紫外線域に含まれる近紫外線(いわゆるブラックライト)を利用して、肌と毛穴の皮脂や色素沈着、角質等の状態などの差異を異なった色で表示させ、肌観察、ならびにカウンセリングに用いる機器をいう。
肌質観察機器	肌質観察機器とは、肌の状態を知るために皮膚表面(角質層)の脂分及び水分、弾性、酸性度(pH)などを観察する機器をいう。
★フェイシャルスキンケアで使用する機器	
エステティックイオン導入機器	エステティックイオン導入機器とは、導入作用、いわゆるイオントフォレーシスの原理を利用して、美容液を導入し、あるいは吸引作用を利用して毛穴の汚れを除去し、美肌効果を得る目的で使用する機器をいう。
エステティックリフトアップ機器	エステティックリフトアップ機器とは、低周波を利用し、美顔の目的で直接通電するものをいう。
エステティック高周波温熱機器	エステティック高周波温熱機器とは、30MHzまでの周波数帯の高周波電流、または周波数 13.56MHz、27.12MHz及び40.68MHzの電磁気を利用した発熱によって、美顔・美肌・シェイプアップ及びその他の美容効果を目的とする機器をいう。
放電管エステティック機器	放電管エステティック機器とは、美顔もしくはシェイプアップ等の目的で、電極管(ガス封入ガラス管)を利用した電気誘導作用により間接通電を行い、同時に、発生するオゾンにより肌表面の清浄をも行う機器をいう。
超音波エステティック機器	超音波エステティック機器とは、美顔・美肌・超音波導入・シェイプアップ等の目的で水もしくは化粧水を用いて 18kHz以上の超音波を使用するフェイシャル、またはボディ用の機器をいう。ただし、超音波エステティック美顔洗浄機器については、別途定める。
超音波エステティック美顔洗浄機器	超音波エステティック美顔洗浄機器とは、美顔・洗浄・イオン導入等の目的で水もしくは化粧水を用いて 18kHz以上の超音波を使用する板(ヘラ)状のプローブを装着した機器をいう。

エステティックペルチェ機器	エステティックペルチェ機器とは、美肌・整肌等の目的でペルチェ素子を利用した温冷機器をいう。
エステティック洗浄回転ブラシ機器	エステティック洗浄回転ブラシ機器とは、先端に付けた回転ブラシにより、皮溝の汚れを洗浄するための機器をいう。
エステティックスプレー機器	エステティックスプレー機器とは、エアーポンプまたはコンプレッサーを利用して、タンク内の化粧水や精製水を霧状にし、肌に噴霧して水分等を補給したり、ミストの冷却作用によって肌のほてりを鎮静化する効果を得るスプレー機器をいう。
エステティックスキんクリーニング噴霧機器	エステティックスキんクリーニング噴霧機器とは、微粉末をエアーポンプまたはコンプレッサーを利用して肌に噴霧することで、角質表面のピーリング行う機器をいう。
エステティックフェイシャル吸引機器	エステティックフェイシャル吸引機器とは、顔またはボディラインを整える目的で、吸引ポンプの吸引力を利用して、肌や毛穴の汚れ等を吸引除去する、あるいは空気を吸引・排気することで肌表面を上下方向に振動させる機器をいう。
エステティックスチーム機器	エステティックスチーム機器とは、温熱スチームを発生させ、皮膚温度を上げて柔軟にすることで、汚れ除去効果や肌水分を高める機器をいう。
エステティックライトトリートメント機器	エステティックライトトリートメント機器とは、ヒーリングやトリートメントを目的とし、LEDによって特定波長帯の可視光を直接照射する、もしくはランプから照射される光をフィルターを通すことで使用目的に合った波長帯の可視光を照射する機器をいう。

特定非営利活動法人 日本エステティック機構の書籍「エステティック機器認証制度」(平成 20 年 4 月発行)より抜粋、引用。

表「エステティックサロンのフェイシャルメニュー広告表現事例」

①美肌を目的とした手技主体のメニュー

メニュー・コースの名称	施術内容
小顔リンパフェイシャル	超濃縮エイジングケア成分を入れ込みながら、オールハンドでデコルテから顔までリンパを流す。
毛穴ゴッソリ大掃除&美白	オリジナル天然活性水スチームで汚れや垢、老化角質を浮かせてやさしく除去。美白成分補給。
高濃度プラセンタ毛穴レス	汚れや古い角質をふやかしてゴッソリ除去。さらに高濃度プラセンタの引締め効果で毛穴を締める。
毛穴&ブツブツ凸凹コース	様々なブツブツ、凸凹肌、毛穴や過剰皮脂が気になる方に、ブツブツを徹底ケアし、毛穴の黒ずみも奥からゴッソリ大掃除。
マスクマジカル7肌改善コース	くすみ、脂浮き、小ジワ・クマ、毛穴、赤み、乾燥、たるみ…7つの悩みを一挙にケア！クリームの塗り分けやタイプ別の石膏マスクで肌悩みを丸ごとピンポイントケア。
血流リンパフェイシャルトリートメント	オールハンドの血流リンパマッサージとこだわりの美容液で、活力にあふれたキメ美肌へ。肌のにごり・くすみ、顔がむくみがち、肌キメが粗い、お疲れ肌などが気になる方におすすめのコース。
オリジナルコース	多くの方がお悩みの毛穴の開きや黒ずみを、クレンジングパックやバキュームで徹底クリーニング。毛穴のキュッと締まったキメ細かな肌へ。エステ初心者の方におすすめのコース。
皮膚再生アミノ酸コース	フィブロインシートという特殊なシートを使用し施術を行う。フィブロインシートには、健康なお肌をもつ全てのアミノ酸が含まれ、シルクフィブロイン配合の化粧品との相乗効果でお肌をリフトアップし、肌細胞賦活作用増強。

②ニキビケアを目的としたメニュー

アクネケア	ニキビや吹き出物に悩む方へおすすめする専用のコース。ディープクレンジングと高周波トリートメント、肌状態に合わせたパックでニキビを徹底ケア。
特殊美顔マリーカテール	ハーブ法と生体エネルギー(バイオ電子技術)の融合により肌細胞内の老廃物を解毒し、急速に栄養を浸透しながら目のまわりのクマ・くすみ・毛細血管・ニキビを改善して、はりのある肌に。

ニキビ&ニキビ跡専門ケアフェイシャル	洗浄等によりニキビを予防。
--------------------	---------------

③ピーリング、ケミカルピーリングの方法を用いたメニュー

グリーンピール	ドイツで医学的な根拠を基に開発されたグリーンピール。化学成分を全く含まない天然ハーブを皮膚に浸透させる事で血行を促進。皮膚の代謝がよくなり、新しい細胞とコラーゲン繊維が作られる。
炭酸フェイシャル	炭酸は、タンパク質に吸着する性質があり、固くなったタンパク質を炭酸が柔らかくし、はがれやすくする。ハリ・むくみ・たるみ等の肌トラブルでお悩みの方にオススメ。
高濃度ビタミントリートメントコース	皮膚表面をケミカルピーリングしてからビタミンCのイオン導入をしていきます。ピーリングをすることにより、お肌表面の老化角質や硬くなった毛穴のまわり、ニキビ跡などもなめらかに整える。

④IPL等の光線応用機器を用いたメニュー

フォト小顔フェイシャル	フォト美顔は肌に有益な光でコラーゲンを増加。毛穴の引き締め、くすみ、ほうれい線もケアしてゆるんだ顔のラインをリフトアップ。
イオンパック光フェイシャルコース	イオンパックで血行を促進し発汗を促し、首から下のリンパマッサージで排出ケア。特殊な光(線維芽細胞に働きかける光。青色、黄色)が真皮部分にまで浸透し、コラーゲン、エラスチン、酸性ムコ多糖類など必要な成分を生成する線維芽細胞に働きかける。
光美顔フォトスキンケア	光によるトリートメント。
スーパーアンチエイジングフォト美顔	IPLの光を照射するフェイシャルトリートメント。
フォトフェイシャル	IPLを使用。シミ・ソバカスの剥離、シワの改善。
顔コラーゲン脱毛	顔のうぶ毛をなくすと同時に肌にハリとツヤを与える顔脱毛。①コラーゲン生成による若返り効果、②毛穴レスで毛穴の黒ずみ、開きで悩まない、③顔そりで肌を痛めることがなくなる、④化粧ノリが良くなり顔色が明るく見える。

⑤超音波、高周波、低周波、ラジオ波等のエステ機器を用いたメニュー

顔筋リフティング	先端の美顔マシンを駆使し、顔の筋肉に効果的な刺激を与えて若々しいフェイスラインへ。ハンドマッサージもプラスして、キュッと持ち上がったシャープな小顔をめざす。
----------	--

	頭と顔にあるツボと経絡をソフトに刺激。お顔の歪みを調整し、表情筋を元のあるべき位置に戻す。
肌活性トリートメント	超音波、低周波、ソフトレーザー、と多彩な美容機器を駆使して、内側から若々しい肌へ導く約 20 分間のスピードメニュー。
シミ改善コース	皮膚科医の治療でも使用されている機器バイオニックセルサーで施術。タンパク分解する機器（イレイザー）でケア。
ラジオ波（ジェネシス RF）	R F ラジオ波を使用し、お顔の脂肪を溶解することで、フェイスラインを整える。脂肪溶解に優れた能力があり、お顔の脂肪が多い方は、このラジオ波を中心に施術を行う。
インディバフェイシャル	高周波と同レベルの中周波の機能を応用した機器によるトリートメント。
ソリューションコース	バイオニックセルサーというイオン導入電子美顔機を用いて、活性酸素を抑制。